

会社訪問



3月17日(土)午後3時半に会社ロビーに待ち合わせということで、浦東のビジネス街の恒生銀行ビルのロビーに行きました。そこには2012年度に本校でALTをしていた邵宝老师、この4月から来られる徐玉洁老师、本校の卒業生で上海外大に留学中の馬淵由香里さん、蘇州大学に留学中の近藤一樹さんも駆けつけてくれました。オフィスは43階にあり、セキュリティーが厳重で、トイレに入るのにも暗証番号が必要でした。生徒たちは上海に到着した2日目に外灘から眺めたビジネスビル群の一つのオフィスにいるだけでも感動していました。

今回は稲畑産業株式会社の北東アジア地域取締役社長花木和宏氏にお話を伺いました。①稲畑産業株式会社本社、②北東アジア地域、③中国拠点、④上海稲畑について説明していただきました。明治時代に創業者の稲畑勝太郎氏は京都府の国費留学生としてフランスに留学し、染料について学び帰国後染料会社を作ったこと、商社は物を作っているのではないため、お客様や社員を大切にし、社是である「敬愛」の精神に基づき、人を尊重し、社会に貢献することをモットーに仕事をしていることを伺いました。本社全体では約6000億円の売り上げがあり、そのうち上海は600億円の売り上げがあることや、



海外売上比率が国内比率よりも若干高いこと(54パーセント)で、今後ますます伸びていくことを知りました。



説明後の質疑応答の中では、語学はできたほうがいいが、第一は製品の品質・性能・管理などが大切で、それ以前に人間性(服装、時間を守るなど基本的なマナーが身についたうえで、何か打ち込んでいるものがあるか、やる気など)が大切であることを教えていただきました。駐在員になるにはという質問に対しては、正しい日本語が話せ、日本人として日本の文化やマナーができることと、



駐在したい国の言語や文化を理解すること、そして多くの本を読んで人間の幅を広げてほしいことを教えていただきました。現在、本社採用ではTOEIC800点以上が一つの条件として第一段階の選考にしている

そうです。しかし花木社長自身は、金太郎あめみたいな人が多いため、キラッと光る何かを持っているとかガッツのある人を採用したいと考えているそうです。

